

Qualifying &
Life Member



MDRT®

オフィス **ASADA**

代表 麻田 春江

茨城県取手市井野台 1-7-28 〒302-0015

T E L : 0297-72-2401 FAX : 0297-72-6217

携 帯 : 090-8720-8591

E-mail : officeasada_h@ybb.ne.jp

U R L : <http://www.officeasada.com>



平成 28 年 2 月 第 57 号

オフィスASADA通信のご案内

本格的な寒さが身にしみる今日この頃、少しずつ日脚が伸びて来ましたね。暖かな春の訪れまでもう一歩です。さて、2月14日はバレンタインデーです。今年も心をこめて「六花亭のビタスイートチョコレート」を送らせていただきました。ご笑味くだされば嬉しいです。

今月のテーマ

- I 「第18回ASADAセミナー」の報告と次回予告
- II 朝ドラ「あさが来た」九転び十起きの女！
広岡浅子の生涯！！



I 「ASADA セミナー」の報告と次回予告

平成 28 年 1 月 31 日(日)取手福祉会館にて、第18回「ASADA セミナー」を開催しました。会場は参加者でいっぱいでした。何時もの通り和気あいあいの中、皆笑顔で楽しんだ1日でした！第一部は麻田から「お金にまつわる開運法」です。お金の入口の財布の状態から、風水の基礎知識、金運体質になるための習慣を学びました。第二部は、日本易学連合会の上島先生による「平成 28 年を観る！」と題して、各年運をご指導いただきました。宇宙の法則を知り上手に活用して幸せな一年を過ごしましょうと心新たにした1日でもありました！

次回は 3 月 27 日 (日)

受付時間: 13:00～

開催時間: 13:30～16:30

会 場: 取手福祉会館 2 階 小ホール

住 所: 取手市東 1-1-5

電 話: 0297-73-5671

申し込み先: オフィス ASADA

Tel: 0297-72-2401 または 090-8720-8591



第 19 回 ASADA セミナー3 周年記念感謝祭！

参加
無料



第一部

相続セミナー！

「相続」その思い込みは間違っていますよ～！若手弁護士が解説します！

講師: 麻田 春江 講師: 東京アライズ法律事務所 弁護士 吉川 樹士 氏

休 憩

第二部

甦れ青春！南部なおと歌謡ショー！

盛春の歌、マイウェイ、ブルーシャトー、プレスリーナンバー、ベンチャーズメドレーなど盛り上がる曲を沢山ご用意してます！みんなで青春時代にタイムスリップ！

お楽しみ大抽選会もあります。空くじなしです！

Ⅱ 朝ドラ「あさが来た」九転び十起きの女！広岡浅子の生涯！！

1849年に豪商、三井高益（たかます）の四女として京都に生まれる。三井家といえば、後の三井グループにつながる名家である。

当時は女は女性らしく和歌や書道、茶華道などを学ばせられ「女子に学問など要らぬ」という時代。女性が表舞台で活躍することが稀だった時代でもある。「**女子も人間です。人間は学問をしなければなりません。女子にも学ぶ機会さえ与えられれば必ず習得する頭脳はあります**」と事あるごとに両親に反抗して育ったという。この幼少期の経験が浅子の人生に大きな影響を与えたのだろう。彼女の不撓不屈の人生の始まりである。



17才の時、大阪の豪商、加島屋の一族で8才年上の広岡信五郎と結婚する。時は幕末の動乱期、徳川幕府が崩壊するという未曾有の大変革の時である。加島屋もこの大混乱をもろに受ける事となり九百万両(現在の4500億円)という巨額の大名貸しが返済されず証文は紙切れ同然となった。2才年上の姉「春」の嫁ぎ先の天王寺屋も同じ両替商だったが倒産の憂き目にあう。

浅子は身を粉にして駆けずり回り、諸藩の屋敷に出向き借金の返済を泊まり込みで懇願するなど、獅子奮迅の働きをみせ、夫や義弟と共に婚家の危機脱却に大いに寄与したのだった。これが浅子の「**実業家人生**」の始まりだった。



男顔負けの浅子は明治19年に筑前潤野（うれしの）炭鉱を買収し、経営に参画する。当時の炭坑夫は刺青の入った荒くれ者が多くケンカは日常茶飯事。ピストルを懐に忍ばせ洋装で炭鉱に乗り込み、炭坑夫たちと生活を共にし採掘を監督した。炭鉱事業はうまく炭層(石炭の層)にぶつかれば多大な収入になるが、何処にあるか分からない。炭層を掘り当てたのは、なんと、買収してから11年の歳月が経っていた時だった。まさに「**九転十起**」のあきらめない精神の結果であった。

浅子は簿記、算術、法律、経済など実業に必要な幅広い知識を独学で修得した。先を読む力のあった浅子は1888年に加島銀行を設立し、1902年には大同生命の創業に参加した。それは、家や店の主が亡くなったとしても、生命保険があつたら残された家族たちが生活に困る事は無いだろうと考えたからだった。さまざまなビジネスに成功した浅子は「**女だからといって出来ないことはない**」という考えだけでなく事実、自らの行動で証明して見せたのだった。

晩年は女性教育の推進に貢献している。梅花女学校の校長である成瀬仁蔵の依頼を受け、**日本初の女子大学校となる日本女子大**の創設を物心両面で支えた。

女性向けの勉強会を主宰し、女性の人権、地位向上に尽力し、その生涯を捧げた。市川房枝や翻訳家、作家として「赤毛のアン」など多くの作品を生んだ村岡花子などに刺激を与えた。

活躍の舞台は財界、教育界、婦人界に及んだ。晩年に記した自伝「一週一信」にこうある。**「女子を器物同様に、親の手から夫の手に渡すといふ事は何と不当な事であろう」と。**おのれの才覚一つで道を切り開くとともに、周りの協力を引出しながら様々なビジネスを成功に導いた浅子の座右の銘は「**九転十起**」。その言葉には「**人が七転び八起きというのなら自分は九回転んでも十回目は起き上がる人間になろう**」という意味が込められている。

浅子は1919年に71才でその波瀾の生涯に幕をおろした。

小説「**土佐堀川**」によると最期の言葉は「**ふだん言うのとったことが、みな遺言や。何も言うことはない**」と、密度の濃い一生を生き切ったのであった。

女性の人権が確立されていない時代、そして激動の時代の中で「**女でも出来る**」と行動に表し、結果を出した一人の先駆者として、又、多くの偉業を果たされた広岡浅子であった。

***** 老後にと 貯金使わぬ 父70 ***** サラリーマン川柳より

解らないことがありましたら麻田まで気兼ねなくお電話ください